

科目名	建築計画Ⅳ													
科目名(英)	Architectural Planning Ⅳ													
単位数	2単位			時間数		30時間			担当者		赤星 亜美			
実施年度	2020年度			実施時期		前期			担当者実務経験					
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年													
授業概要	建築計画とは何かを説明できる 既存の建築計画を調査・研究している これからの社会情勢に応じた建築計画を模索する意志を有する。													
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目 標								
	○	○				既存の建築計画の調査、研究が出来ている								
	○	○				事務所ビルの理解ができ計画が出来る								
	○	○				音楽ホール、劇場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる								
	○	○				百貨店、スーパーマーケットの構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる								
	○	○				宿泊施設、駐車場の構造上の特徴を把握し、建築計画を立てられる								
テキスト・教材 参考図書	テキスト:初学者の建築講座 建築計画(改訂版) 参考図書:カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、ホテル・旅館 市ヶ谷出版、「新建築」等の建築雑誌 その他													
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示					
	1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率							予習・復習することを心がける。					
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	4	6-2事務所ビル 各室計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷							前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。					
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷							前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。					
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	11	6-5 宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件							前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。					
	12	6-5 宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	13	6-5 宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	14	6-5 宿泊施設 6-6 駐車場							予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。					
	15	総括 I							授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。													
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合	
	定期試験		○		○								80%	
	小テスト		○		○								10%	
	宿題・レポート		○		○								10%	
履修上の注意	上記評価及び出席率60%が単位付与条件とする。													

科目名	建築環境工学											
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		竹田 真志		
実施年度	2020年度			実施時期		前期		担当者実務経験				
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年											
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、二級建築試験における学科Ⅱ(環境工学)の問題に対応出来るようになる											
授業形式	講義: ○			演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる						
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる						
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる						
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べることができる						
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学 市ヶ谷出版 オリジナルプリント											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	建築環境工学の役割										
	2	太陽位置と日照・日影の関係					教科書予習する					
	3	日影曲線・日影時間					教科書予習する					
	4	日射量・日射調節					教科書予習する					
	5	光環境・測光量・照度計算					教科書予習する					
	6	明視条件・採光					教科書予習する					
	7	採光による照度計算・採光計画					教科書予習する					
	8	人工照明・照度計算(光束法)					教科書予習する					
	9	色彩の表し方・表色法					教科書予習する					
	10	色彩の効果・色彩計画					教科書予習する					
	11	室内空気汚染物質と許容濃度					教科書予習する					
	12	各汚染物質に伴う必要換気量の計算					教科書予習する					
	13	自然換気の種類と風力換気の計算					教科書予習する					
	14	自然換気・温度差換気の計算・通風					教科書予習する					
	15	機械換気方式・換気計画					期末試験のため今までの振り返りをする。					
評価方法	期末試験結果と授業内での理解度確認テストの結果による。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		○								80%
	小テスト	○		○								10%
	宿題・レポート	○		○								10%
履修上の注意	出席率60%が単位付与条件とする。											

科目名	建築設備											
科目名(英)	Building Facilities											
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		峯元 幹雄		
実施年度	2020年度			実施時期		前期		担当者実務経験		総合メーカー建築技術担当。建材・都市開発・住宅部門に従事		
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年											
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。											
授業形式	講義: ○			演習: -		実習: -		実技: -		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる						
	○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる						
	○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる						
	○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる						
	○	○				昇降機設備の種類と仕組みを理解する。						
テキスト・教材 参考図書	初学の建築講座 建築設備 第3版											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	建築設備概要(1・1建築設備とは)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	2	給排水衛生設備 2・1給排水衛生設備とは					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	3	2・2給水設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	4	2・3給湯設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	5	2・5排水・通気設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	6	2・6排水処理設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	7	2・7衛生器具設備 2・8消火設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	8	空気調和設備 3・1空気調和設備とは 3・2空気調和と室内環境					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	9	3・3空気の状態を知る 3・4空調負荷の考え方					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	10	3・5空気調和方式の種類 3・6熱源・熱搬送設備と機器部材					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	11	3・7換気・排煙設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	12	電気設備 4・1電気設備とは					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	13	4・2受変電・幹線設備					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	14	4・5照明・コンセント設備 4・6情報・通信設備搬送設備 5・1・1エレベーター					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと					
	15	まとめ					本科目における学習内容を復習しておくこと					
評価方法	定期試験規定にもとづき、試験(筆記)を実施する。小テスト及び宿題レポートを数回実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	◎		○								80%
	小テスト	○		◎								10%
	宿題・レポート	○		○								10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名		建築構造力学Ⅲ												
科目名(英)		Building Structural Mechanics Ⅲ												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者	古賀 俊光						
実施年度	2020年度		実施時期		前期		担当者実務経験	設計事務所に 建築デザインに従事						
対象学科・学年		建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年 建築工学科 3年												
授業概要		建築構造物が荷重などに対してどのように変形し、構造物にどのような応力が発生するのかを計算できるように基礎知識の習得を目的とする。構造力学Ⅲでは、不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。												
授業形式		講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△				
学習目標 (到達目標)		言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標							
		○	○				断面一次モーメント・図心を算出することができる。							
		○	○				断面二次モーメント・断面係数を算出することができる。							
		○	○				応力度を算出することが出来る。							
		○	○				座屈についての算出することが出来る。							
		○	○				梁の変形についての算出することが出来る。							
テキスト・教材 参考図書		学芸出版社 図説 やさしい構造力学												
授業計画		回数	授業項目・内容					授業外学修指示						
		1	断面の性質(1)断面一次モーメント・図心											
		2	断面の性質(2)断面二次モーメント・断面係数					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		3	応力度(1)軸応力度					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		4	応力度(2)曲げ応力度					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		5	応力度(3)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		6	座屈・確認試験					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		7	梁の変形					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		8	不静定構造とは、剛比の計算					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		9	固定モーメント法(1)材端モーメント・分割モーメント					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		10	確認試験(1)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		11	多層ラーメンの応力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		12	弾性と塑性					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		13	全塑性モーメント、崩壊荷重					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		14	不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと						
		15	力学Ⅲの総まとめ					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと						
評価方法		(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを実施する。 (3)宿題を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。												
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合	
		定期試験		○		◎						60%		
		小テスト		◎		◎						20%		
		宿題・レポート		○		◎						20%		
履修上の注意		出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。												

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building ConstructionⅡ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	集路 正巳
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 2年						
授業概要	既に学んだ施工Ⅰに続き、建築工事を構成する各工種について、鉄骨工事以降の内容について概要を理解する。また、設備工事や建物完成後の業務に関しても理解を深める。						
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目 標	
	○	○				建築施工の目的と概略を説明できる	
	○	○				施工計画の概要と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における工事の内容と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における必要な検査事項と活用方法を工事の段階ごとに説明できる	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	鉄骨工事(概要、工場製作①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	鉄骨工事(工場製作②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	鉄骨工事(工場製作③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	鉄骨工事(現場施工②)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	鉄骨工事(現場施工③)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	鉄骨工事のまとめ、小テスト①				授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと	
	8	屋根工事、防水・シーリング工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	石工事、建具・ガラス工事、金属工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	内装工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	小テスト②、期末試験対策				授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと	
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト	○	◎				30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規 Ⅲ											
科目名(英)												
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		徳田 美穂子		
実施年度	2020年度			実施時期		前期		担当者実務経験		設計事務所にて、公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事		
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年											
授業概要	建築物の設計、施工に必要な不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る											
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。						
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。						
	○	○				建築法規に規定する事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。						
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。						
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	高さ制限 1							事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	2	高さ制限 2							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	3	高さ制限 3、日影							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	4	内装制限 1							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	5	内装制限 2							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	6	防火区画等①							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	7	防火区画等②							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	8	避難施設 1(避難施設が必要な建築物)							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	9	避難施設 2(避難階段と特別避難階段)							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	10	避難施設 3							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	11	その他の法令 1(建築士法)							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	12	その他の法令 2(建築士法、建設業法)							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	13	その他の法令 3(バリアフリー法、耐震改修法)							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	14	その他の法令 4(品確法、長期優良住宅)							次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。			
	15	その他の法令 5(消防法)							定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)											
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	評価割合
	定期試験		○		◎							80%
	小テスト		○		◎							20%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。											

科目名	BIM Ⅲ							
科目名(英)	Building Information Modeling							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	道脇 力	
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	建築CAD科 2年							
授業概要	課題の制作を通して、ARCHICADのチームワーク操作と実践的な表現技術の習得を図り、各用途の建築計画的理解を深め、表現力を豊かにすることを目指す。							
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○	○			チームワーク機能を効果的に活用してモデリングを行うことができる。		
	○	○				課題に必要な情報収集を行うことができる。		
		○	○			ゾーンツールを使ってボリュームスタディができる。		
			○			BIMワークフローにより効率よく設計ができる。		
		○	○			BIMを活用したプレゼンテーションができる。		
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1 2	チームワークの概要、モデル入力「木造軸組①」				テキストを見て予習を行うこと		
	3 4	モデル入力「木造軸組②」データチェック				前回の復習を行うこと		
	5 6	課題: 複合ビル「情報収集」				情報、資料収集を行うこと		
	7 8	課題: 複合ビル「エスキス①」				情報、資料収集を行うこと		
	9 10	課題: 複合ビル「エスキス②」				情報、資料収集を行うこと		
	11 12	課題: 複合ビル「エスキス③」				情報、資料収集を行うこと		
	13 14	課題: 複合ビル「制作①」				情報、資料収集を行うこと		
	15 16	課題: 複合ビル「制作②」				情報、資料収集を行うこと		
	17 18	課題: 複合ビル「制作③」				情報、資料収集を行うこと		
	19 20	課題中間報告(発表)				発表資料の確認を行うこと		
	21 22	課題: 複合ビル「制作④」				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	23 24	課題: 複合ビル「制作⑤」				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	25 26	課題: 複合ビル「制作⑥」				タイムスケジュールの確認を行うこと		
	27 28	課題: 複合ビル「制作⑦」				必要提出資料の確認を行うこと		
	29 30	課題プレゼンテーション(発表)「プレゼン資料提出」				必要提出資料の確認を行うこと		
	評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さ・表現力を評価する。(3)期限内に提出すること。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		課題提出		○				30%
		課題作品	○	○	○			60%
提出状況			○				10%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、単位を認めない。							

科目名	JWCAD						
科目名(英)	jwcad exercise						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	吉田 麻美
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科 2年						
授業概要	Jw-CADのコマンド操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得 用紙サイズ・尺度・寸法など製図知識の習得 木造住宅・鉄筋コンクリート造の計画・各部分の名称・構造等の習得						
授業形式	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○	○			覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。	
	○	○				用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールに従った正確な作図を行うことができる。	
		○	○			木造住宅、鉄筋コンクリート造の配置図・平面図・断面図を作成することができる	
		○	○			自ら用途に応じてJwCADの各種設定を行うことができる。	
		○	○			レイヤの設定、かき分けができる。	
テキスト・教材 参考図書	初めての建築CAD:学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	JW－cadの基本操作(1)線分・消去・矩形・中心線・複線					授業内容を繰り返し練習し、復習を行うこと
	2	JW－cadの基本操作(1)線分・消去・矩形・中心線・複線					練習問題を繰り返し練習し、復習を行うこと
	3	JW－cadの基本操作(2)円・円弧・接円・接点・点					前回の復習を行うこと
	4	JW－cadの基本操作(2)円・円弧・接円・接点・点					前回の復習を行うこと
	5	JW－cadの基本操作(3)伸縮・コーナー・面取・分割					前回の復習を行うこと
	6	JW－cadの基本操作(3)伸縮・コーナー・面取・分割					前回の復習を行うこと
	7	JW－cadの基本操作(4)複写・移動・パラメトリック・多角形・測定					前回の復習を行うこと
	8	JW－cadの基本操作(4)複写・移動・パラメトリック・多角形・測定					前回の復習を行うこと
	9	作図課題1(木造住宅)①図枠作成・レイヤ設定・配置図作成					前回の復習を行うこと
	10	作図課題1(木造住宅)②配置図作成					前回の復習を行うこと
	11	作図課題1(木造住宅)③レイヤ設定・1階平面図作成					前回の復習を行うこと
	12	作図課題1(木造住宅)④1階平面図作成・2階平面図作成					前回の復習を行うこと
	13	作図課題1(木造住宅)⑤2階平面図作成					前回の復習を行うこと
	14	作図課題1(木造住宅)⑥建築概要作成・印刷設定					前回の復習を行うこと
	15	作図課題1(木造住宅)⑦修正					前回の復習を行うこと
評価方法	(1)5つの課題提出を期限内に行うこと。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題の提出状況		○				30%
	作品の完成度		○	○			70%
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。						

科目名	Revit I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数		30時間	担当者	笠 真由美	
実施年度	2020年度	実施時期		前期	担当者実務経験		
対象学科・学年	建築CAD科 2年						
授業概要	建設業界では企業の約8割がBIM(Building Information Modeling)を導入し、3次元モデルを作成し、設計から施工、維持管理に至るまで建築ライフサイクル全体でモデルに蓄積された情報を活用している。授業ではBIMを実現するソフトの1つRevitを使ってBIM設計に取り組み、BIM設計の基本を学びます。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				Revitでの3Dモデリングができる	
	○	○				Revitによるプレゼンテーション操作ができる	
	○	○				Revitによる図面の作成ができる	
	○	○				シート設定と図面の書き出し／読み込みができる	
テキスト・教材 参考図書	初めてのRevit & Revit LT 実践BIM入門ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Revitについて 画面と基本操作				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	2	【基本設計】 Revitでモデリングするための準備				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	3	【基本設計】 Revitでのモデリング①				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	4	【基本設計】 Revitでのモデリング②				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	5	【基本設計】 Revitでのモデリング③				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	6	【基本設計】 Revitでのモデリング④				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	7	【基本設計】 Revitでのモデリング⑤				完成データの提出を求めます。	
	8	【プレゼンテーション】 マテリアル設定				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	9	【プレゼンテーション】 方角・場所・太陽の設定／パースビューの作成				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	10	【プレゼンテーション】 クラウドレンダリング／家具を配置したショットパースの作成				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	11	【プレゼンテーション】 3Dビューを利用した概観パースの作成				完成データの提出を求めます。	
	12	【図面作成】 1階平面図の作成				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	13	【図面作成】 住戸平面図の作成				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	14	【図面作成】 専有・共有面積図の作成				繰り返しの練習が大切です。授業内容を復習しましょう。	
	15	シート設定と図面の書き出し／読み込み				完成データの提出を求めます。	
評価方法	(1)課題の提出状況 (2)課題作成の正確さ 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	基本設計モデリング	○	○				25%
	プレゼンテーション	○	○				25%
	図面作成	○	○				25%
	シート設定	○	○				25%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、提出課題が未提出の場合は履修単位を与えない。						

科目名	建築設計製図									
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING									
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		今泉 清太	
実施年度	2020年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築CAD科 2年									
授業概要	建物の概要は設計図で表現される。そのため設計図を正しく読み取る力および正確に表現することが求められる。本授業では、製図道具の使い方、線の描き方など製図の書き方を習得し、木造建築物の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。									
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○	○			製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる				
	○	○				木造建築の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。				
	○	○	○			2級建築士2次試験の対策に向け過去問を通して理解する				
テキスト・教材 参考図書	2級建築士試験 設計製図テキスト									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	製図のスキル確認					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	2	製図用具の説明					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	3	線の練習					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	4	文字の練習・建具記号・表現					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	5	2級建築士国家試験問題①: 木造2階建住宅(1)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	6	2級建築士国家試験問題①: 木造2階建住宅(2)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	7	2級建築士国家試験問題①: 木造2階建住宅(3)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	8	2級建築士国家試験問題①: 木造2階建住宅(4)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	9	2級建築士国家試験問題①: 木造2階建住宅(5)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	10	2級建築士国家試験問題②: 木造2階建住宅(6)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	11	2級建築士国家試験問題②: 木造2階建住宅(7)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	12	2級建築士国家試験問題②: 木造2階建住宅(8)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	13	2級建築士国家試験問題②: 木造2階建住宅(9)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	14	2級建築士国家試験問題②: 木造2階建住宅(10)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
	15	2級建築士国家試験問題②: 木造2階建住宅(11)					授業後、繰返しの練習を推奨する。 課題は次の授業までに終わらせること。			
評価方法	(1)複数の課題提出を行う。(2)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。(3)期限内に提出すること。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	課題提出		○	○			10%			
	課題作品		○	○			20%			
	提出状況		○	○			70%			
履修上の注意	出席が2／3に満たない場合は、単位を認めない。									

科目名	就職実務ⅡA										
科目名(英)	Employment practicesⅡA										
単位数	2単位			時間数		30時間		担当者		各クラス担任	
実施年度	2020年度			実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年 建築工学科 3年										
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。										
授業形式	講義： ○			演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				就職活動における企業研究が行うことができる					
	○	○				自己分析を行うことができる					
	○	○				作品集を作成し就職活動ができる					
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示		
	1	履歴書の書き方									
	2	受験企業の研究し求人を探しリストアップ									
	3	自己分析作成と作品集ブラッシュアップ									
	4	志望理由チェックと作品集ブラッシュアップ									
	5	就職活動スケジュールを制作									
	6	就職活動状況の共有									
	7	ポートフォリオのブラッシュアップ									
	8	対象企業を意識した面接練習									
	9	対象企業を意識した面接練習(グループディスカッション)									
	10	受験企業の研究し求人を探しリストアップ									
	11	自己分析や志望理由チェック									
	12	就職活動状況の共有									
	13	求人情報の集め方や、管理の仕方									
	14	対象企業を意識した面接練習									
	15	就職活動スケジュールを制作									
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	受講態度・意欲		○	○				30%			
	課題の提出		○	○				70%			
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする										

科目名	卒業制作Ⅰ							
科目名(英)	Architectural Diploma design of Housing and Urban Planning majors							
単位数	6単位		時間数	90時間		担当者	川上 隆之・三池 剛士	
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	建築CAD科 2年							
授業概要	専攻ゼミⅡで選択した専門知識を活かして本講義・演習は、今まで学んできた建築学・計画学の積み重ねの集大成として位置付けている。社会問題や環境問題、身の回りの課題など、テーマを自由に設定し、それを「建築」という手段で解決に向かう一連の作業である。また指導に際しては、その一連の作業が社会で仕事を遂行する訓練として位置付けており、基本的な作業(準備、段取り、調査、説明など)から評価の対象とする。また、自分の意思表現でもあるプレゼンテーションにおいては、厳しく指導を進めることとする。人に伝えるとは何か、また、建築が解決できることとは何か、常に物事の本質に向かう姿勢を大切に指導を行うものとする。							
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○					対象敷地を定め、周囲環境、コンテキスト等を調査しまとめることができる。		
		○				建築計画を立案し、具体的な設計内容を、ダイアグラムや図面、模型を作成しまとめることができる。		
		○				客観的・多角的な目線で計画内容を再検討し、ブラッシュアップすることができる。		
		○				計画案について魅力的に発表することができる。		
		○				他者の作品に対し、的確にアドバイスすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	テキスト:なし、参考図書:建築設計資料集成、新建築および各種建築書籍資料等							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1 2 3	ガイダンス:卒業制作の概要と前期作業内容の解説				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	4 5 6	エスキス:テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	7 8 9	エスキス:コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	10 11 12	エスキス:計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	13 14 15	発表:取り組む課題とその計画案について発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)				講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
	16 17 18	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	19 20 21	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	22 23 24	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	25 26 27	発表:計画内容の詳細発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)				講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
	28 29 30	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	31 32 33	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	34 35 36	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)				スケッチブックを常備し、毎日検討を進めること。調査資料、作成資料はスケッチブックに貼り付け、まとめていくこと。		
	37 38 39	発表:最終発表(PC+プロジェクター／1人5分程度)				講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
	40 41 42	最終成果手直し				講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
	43 44 45	最終成果手直し+最終提出				講評における評価・指導内容を客観的に見つめ直し、作品のブラッシュアップにつなげること。		
	評価方法	課題作品、エスキスチェック、発表を、下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下)とする。						
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
		課題作品	○	◎				80%
		エスキスチェック	○	○				10%
		発表	○	○				10%
	履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	検定対策Ⅱ（選択）						
科目名（英）							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	松尾　ひとみ
実施年度	2020年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	建築CAD科　2年						
授業概要	「2次元CAD利用技術者試験1級」は、CADを利用するための知識を持ち、さらに図面を正しく理解してCADを利用した作図を効率的にこなすことができる技能を証明できる試験制度です。3次元による設計・製造が進むものづくりの現場では、一方で、2次元図面の読み描きのできる人材が必要とされています。検定対策授業では、CAD利用技術者試験1級合格を目指し、演習課題に取り組みます。						
授業形式	講義：　　△		演習：　　○		実習：	実技：	※　主たる方法：○　　その他：△
学習目標 （到達目標）	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○				図面と図面の関係を理解し、指定された位置の図面を作図することができる。	
	○	○				複数の図面から必要な寸法を読み取り、図面を作成することができる。	
	○	○				図面に必要な要素を読み取り、正確な図面を作図することができる。	
	○	○				時間内に図面を作図することができる。	
				○	2次元CAD利用技術者試験1級　建築試験に合格することができる。		
テキスト・教材 参考図書	CAD利用技術者試験　2次元2級・基礎　公式ガイドブック／過去問題						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	検定試験　概要説明／練習問題①				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	2	練習問題②				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	3	過去問演習①　RC造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	4	過去問演習①　RC造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	5	過去問演習②　RC造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 授業内容を復習しましょう。	
	6	過去問演習②　　RC造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 過去問題を繰り返し練習しましょう。	
	7	過去問演習③　　RC造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 過去問題を繰り返し練習しましょう。	
	8	過去問演習④　　RC造住宅断面図の作成				繰り返しの練習が大切です。 過去問題を繰り返し練習しましょう。	
	9	過去問演習⑤　　RC造住宅断面図の作成				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	10	過去問演習⑥　　RC造住宅断面図の作成　タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	11	過去問演習⑦　　RC造住宅断面図の作成　タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	12	過去問演習⑧　　RC造住宅断面図の作成　タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	13	過去問演習⑨　　RC造住宅断面図の作成　タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	14	過去問演習⑩　　RC造住宅断面図の作成　タイムトライアル				時間を意識して問題に取り組みましょう。 繰り返しの練習が大切です。	
	15	過去問演習⑪　　RC造住宅断面図の作成　タイムトライアル				自信を持って試験に臨みましょう。	
評価方法	(1)演習問題を実施し、検定試験に合格できるレベルでの図面を作図する 以上および検定試験結果を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	練習問題	○	○				10%
	過去問題	○	○				40%
	検定試験	○	○				50%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は科目履修単位を与えない。						

科目名	検定対策ゼミA(選択)インテリアコーディネーター										
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		福田 昌彦		
実施年度	2020年度		実施時期		前期		担当者実務経験		住宅メーカー、インテリア系企業にて商品企画開発者として勤務		
対象学科・学年	建築工学科 建築CAD科 2年										
授業概要	インテリア産業協会主催インテリアコーディネーター検定対策の学習を通して、建築概要とインテリアコーディネーター知識のより専門的な知識の習得を図る										
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				インテリアコーディネーター1次試験合格レベルの知識を身につけることができる					
	○	○				インテリアコーディネーター2次試験合格レベルの知識を身につけることができる					
テキスト・教材 参考図書	テキスト：インテリアコーディネーター合格教本(上・下) インテリアコーディネーター問題集(上・下) その他										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	ガイダンス/資格概要					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	2	1章 住宅と社会/2章 インテリア販売					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	3	9章 構造・構法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	4	3章 インテリアの歴史					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	5	10章 材料					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	6	3章 インテリアの歴史					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	7	10章 材料					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	8	4章 インテリア計画					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	9	11章 環境工学					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	10	5章 色彩と造形					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	11	11章 環境工学/12章 住宅設備					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	12	6章 家具					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	13	12章 住宅設備/13章 照明					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	14	6章 家具					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	15	13章 照明/14章 表現技法					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	16	7章 ウィンドウトリートメント					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	17	15章 建築関連法規					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	18	8章 各種エレメント					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	19	16章 消費者関連法規					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	20	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	21	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	22	模擬試験					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	23	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	24	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	25	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	26	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	27	模擬試験					学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	28	模擬試験					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	29	模擬試験					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	30	模擬試験					正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
評価方法	(1)小テストを各章が修了した次の授業で実施する。(2)20回目から宿題あり。(3)全国模試を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	全国模試		○					50%			
	小テスト		○					25%			
	宿題		○					25%			
履修上の注意											

科目名		検定対策ゼミA(選択)宅地建物取引士試験										
科目名(英)												
単位数		4単位			時間数		60時間		担当者		森行 美枝	
実施年度		2020年度			実施時期		前期		担当者実務経験		建築設計事務所にて設計・監理業務担当	
対象学科・学年		建築工学科 建築CAD科 2年										
授業概要		宅建試験の合格も視野に、試験の問題演習を通して、建築物を取引する不動産権利取引に関する知識を修得する。 それにより、建築物の財産的価値の重要性を認識できる視点を養う。										
授業形式		講義： △			演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
		○	○				宅建業の業務内容と役割について宅建業法の条文規定を用いて説明できる					
		○	○				宅地建物取引士の実務における重要事項を条文規定を用いて説明できる					
		○	○				民法の権利義務関係について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる					
		○	○				不動産取引手続きに関する問題について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%を出すことができる					
						○	全国模擬試験で全国平均以上の点数が取れる					
テキスト・教材 参考図書		出る順 宅建士 ウォーク問過去問題集2018年版①～③ 【東京リーガルマインド】										
授業計画		回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
		1	用語の定義／免許制度／宅建士制度						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		2	営業保証金／保証協会／媒介契約等の規制						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		3	重要事項の説明／37条書面						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		4	8種制限／業務上の諸規制／監督・罰則						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		5	報酬／住宅瑕疵担保履行法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		6	単元テスト						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと			
		7	制限行為能力者／意思表示／代理						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		8	時効／不動産物権変動／物権関係						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		9	抵当権／保証・連帯保証／連帯債務						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		10	債権譲渡／債務不履行と解除／弁済・相殺／売買						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		11	賃貸借／委任・請負／不法行為						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		12	相続						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		13	借地借家法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		14	借地借家法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		15	区分所有法／不動産登記法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		16	単元テスト						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと			
		17	都市計画／開発許可制度						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		18	建築基準法(単体規定・集団規定)／宅地造成等規制法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		19	土地区画整理法／農地法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		20	国土利用計画法／諸法例						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		21	国土利用計画法／諸法例						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		22	単元テスト						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと			
		23	不動産取得税／固定資産税						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		24	不動産譲渡所得／登録免許税／印紙税／贈与税						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		25	地価公示法／不動産鑑定評価基準						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		26	住宅金融支援機構／景品表示法						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		27	土地／建物／統計						学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること			
		28	単元テスト						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと			
		29	全国模擬試験①						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと			
		30	全国模擬試験②						正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと			
評価方法		(1)単元テスト(2)模擬試験の点数で評価する 成績評価基準は、平均正答率 S(90%以上)・A(80%以上)・B(70%以上)・C(60%以上)・D(59%以下)とする。										
				言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
		単元テスト		○	○				50%			
		模擬試験		○	○				50%			
履修上の注意		難しい法律用語が多々出てくるので、用語の意味をその都度細かく確認すること										

科目名		検定対策ゼミA(選択)2級建築施工管理技士資格試験											
科目名(英)													
単位数		4単位		時間数		60時間		担当者		集路 正巳			
実施年度		2020年度		実施時期		前期		担当者実務経験		総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務			
対象学科・学年		建築工学科 建築CAD科 2年											
授業概要		2施工_学科試験合格を視野に、問題読解に必要な知識をポイントを絞り身につけていきます。 また、理解度確認のため小テスト、模擬テストを複数回、実施し実力をつけていきます。											
授業形式		講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)		言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
		○	○				建築施工に関する専門用語の意味を正しく説明できる。						
		○	○				小テストの平均正解率60%以上を獲得できる。						
		○	○				模擬テストの平均正解率60%以上を獲得できる。						
テキスト・教材 参考図書		①. 2級建築施工管理技士要点テキスト(2020年度版)市ヶ谷出版社 ②. 2級建築施工管理技士即戦問題集(2020年度版)市ヶ谷出版社											
授業計画		回数	授業項目・内容					回数	授業項目・内容				
		1	1章 建築学 01 環境工学					16	16 安全管理 / 小テスト④				
		2	02 構造力学					17	5章 建築施工 17 地盤調査				
		3	03 一般構造					18	18 仮設工事				
		4	04 建築材料 / 小テスト①					19	19 地業				
		5	2章 共通 05 舗装・植栽工事					20	20 土工事				
		6	06 建築設備					21	21 鉄筋コンクリート工事				
		7	07 設計図書・測量 / 小テスト②					22	22 特殊コンクリート工事 / 小テスト⑤				
		8	3章 建築法規 08 建築基準法					23	23 鉄骨工事				
		9	09 建設業法					24	24 木工事				
		10	10 労働基準法					25	25 防水工事、石工事				
		11	11 労働安全衛生法					26	26 タイル工事、屋根工事				
		12	12 環境保全関係法、その他 / 小テスト③					27	27 金属工事、左官工事				
		13	4章 施工管理法 13 施工計画					28	28 建具工事、塗装工事				
		14	14 工程管理					29	29 内外装工事、建設機械 / 小テスト⑥				
		15	15 品質管理					30	総まとめ / 模擬テスト				
		授業外学修指示											
		・当日の授業範囲に係るテキストの該当部分を事前に読んでおく事。特に専門用語を理解しておく。											
評価方法		(1) 模擬テスト(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合					
		模擬テスト	○	◎				70%					
		小テスト	○	◎				30%					
履修上の注意		出席数が全体の2/3に満たない場合には、単位を与えない。またゼミ受講に対する意欲が感じられないと判断した場合は、ゼミへの出席停止を指示し単位を与えない事がある。											

科目名	数学ゼミⅡA(選択)									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		15時間		担当者		吉田 麻美	
実施年度	2020年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 2年									
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す									
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
	○	○				1次関数の値の変化をグラフに表すことができる				
	○	○				1次関数と方程式の問題が解ける				
	○	○				1次関数の応用問題が解ける				
	○	○				図形の性質と合同性質を用いた問題が解ける				
	○	○				証明問題を解くことができる				
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	【演習問題】 1次関数 値の変化、変化の割合					解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。			
	2	【演習問題】 1次関数 1次関数のグラフ問題								
	3	【演習問題】 1次関数 1次関数のグラフのかき方・式の求め方								
	4	【演習問題】 1次関数 1次関数と方程式(連立方程式)								
	5	【演習問題】 1次関数の利用 文章問題 まとめ								
	6	【演習問題】 図形の性質と合同 直線と角、三角形と角、多角形の角								
	7	【演習問題】 図形の性質と合同 三角形の合同								
8	【演習問題】 図形の性質と合同 証明問題									
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	受講態度・意欲	○	○				30%			
	課題の提出	○	○				70%			
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする									

科目名		BIM専攻ⅡA(選択)										
科目名(英)		Building Information Modeling ⅢA										
単位数	1単位			時間数		15時間			担当者	道脇 力		
実施年度	2020年度			実施時期		前期			担当者実務経験			
対象学科・学年		建築工学科 ・ 建築CAD科 ・ インテリアデザイン科 ・ 建築学科(昼) 2年										
授業概要		・ARCHICADのチームワーク操作の習得。 ・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。										
授業形式		講義:		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○				チームワーク機能を効果的に活用してモデリングを行うことができる。						
	○	○				課題に必要な情報収集を行うことができる。						
		○	○			ゾーンツールを使ってボリュームスタディができる。						
テキスト・教材 参考図書		木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)										
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	チームワークの概要、モデル入力「木造軸組①」							テキストを見て予習を行うこと			
	2	モデル入力「木造軸組②」データチェック							前回の復習を行うこと			
	3	課題:複合ビル「情報収集」							情報、資料収集を行うこと			
	4	課題:複合ビル「エスキス①」							情報、資料収集を行うこと			
	5	課題:複合ビル「エスキス②」							情報、資料収集を行うこと			
	6	課題:複合ビル「エスキス③」							情報、資料収集を行うこと			
	7	課題:複合ビル「制作①」							情報、資料収集を行うこと			
	8	課題:複合ビル「制作②」							情報、資料収集を行うこと			
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											
評価方法	(1)発表・作品 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	発表・作品	○		◎								50%
	課題提出			◎		○						50%
履修上の注意		出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。										